

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成24年2月14日

【四半期会計期間】 第82期第3四半期(自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日)

【会社名】 トレーディア株式会社

【英訳名】 T R A D I A C O R P O R A T I O N

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 鈴木 安雄

【本店の所在の場所】 神戸市中央区海岸通一丁目2番22号

【電話番号】 078(391)7170(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務本部長 山口 勝

【最寄りの連絡場所】 神戸市中央区海岸通一丁目2番22号

【電話番号】 078(391)7170(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務本部長 山口 勝

【縦覧に供する場所】 トレーディア株式会社京浜支店
(東京都千代田区岩本町二丁目1番15号)

トレーディア株式会社名古屋支店
(名古屋市港区入船二丁目5番7号)

株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	会計期間	第81期 第3四半期 連結累計期間	第82期 第3四半期 連結累計期間	第81期
		自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日	自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
売上高	(百万円)	11,522	11,721	15,082
経常利益	(百万円)	145	222	142
四半期(当期)純利益	(百万円)	79	36	73
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	63	67	61
純資産額	(百万円)	2,269	2,261	2,267
総資産額	(百万円)	8,876	9,180	8,244
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	5.41	2.50	4.99
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	25.6	24.6	27.5

回次	会計期間	第81期 第3四半期 連結会計期間	第82期 第3四半期 連結会計期間
		自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日	自 平成23年10月1日 至 平成23年12月1日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	3.49	3.14

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第81期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響による経済活動の停滞から回復基調にあるものの、欧州における金融危機、円高の長期化、タイの洪水などが影響し、依然先行き不透明な状態が続いております。

当社グループはこのような状況下におきまして、海外拠点の整備と拡充を行うとともに、積極的な営業展開に努めてまいりました。総取扱量は前年同期比1.0%減少しましたが、売上高は117億21百万円余(対前年同期比1億99百万円余増)となりました。損益面につきましては、外注費比率が微減となり、営業総利益は前年同期比15.3%増加し10億28百万円余(対前年同期比1億36百万円余増)となりました。営業利益は1億84百万円余(対前年同期比1億11百万円余増)、経常利益は2億22百万円余(対前年同期比76百万円余増)となりましたが、特別損失に投資有価証券評価損を1億72百万円余計上したことにより、四半期純利益は36百万円余(対前年同期比42百万円余減)の計上となっております。

セグメントの業績を示すと、次の通りであります。

輸出部門

輸出部門におきましては、金属製品が減少しましたが、機械機器製品が増加したことにより、輸出部門の売上高は前年同期比5.5%増加し28億74百万円余、セグメント利益は2百万円余(前年同期間はセグメント利益13百万円余)の計上となりました。

輸入部門

輸入部門におきましては、繊維製品が減少しましたが、機械製品が増加したことにより、輸入部門の売上高は前年同期比4.5%増加し45億67百万円余、セグメント利益は1億8百万円余(前年同期間はセグメント損失1百万円余)の計上となりました。

国際部門

国際部門におきましては、国際輸出は東南アジアへの鋼材関連の取扱いは低調でありましたが、北米向け家電、建設機械及びベトナム向け火力発電プロジェクト部品の取扱いを伸ばしたことにより、国際輸出部門の売上高は前年同期間比10.50%増加し11億35百万円余の計上となりました。国際輸入は、一部家具、家電等の取扱量は増加しましたが、中国関連の靴製品、玩具、繊維等主力商品の取扱い及び主要代理店からのフリーハンド貨物の取扱いが大幅な減少となったため、国際輸入部門の売上高は前年同期間比7.5%減少し29億93百万円余の計上となりました。その結果、国際部門の売上高は前年同期間比3.2%減少し41億28百万円余、セグメント利益は59百万円余(前年同期間はセグメント利益39百万円余)の計上となりました。

その他

船内荷役、港湾関連及び倉庫業等の売上合計は前年同期間比8.0%減少し2億24百万円余となり、セグメント利益は前年同期間比32.4%減少し、14百万円余の計上となりました。

(2)財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ9億36百万円余増加し、91億80百万円余となりました。流動資産は4億44百万円余増の36億84百万円余、固定資産は4億92百万円余増の54億96百万円余であります。流動資産増加の主な要因は、受取手形及び売掛金、現金及び預金等の増加によるものであります。固定資産増加の主な要因は、投資有価証券評価損計上による投資有価証券の減少等ありますが、土地の購入による増加等であります。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ9億60百万円余増加し、50億19百万円余となりました。固定負債は、前連結会計年度末に比べ、17百万円余減少し18億99百万円余となりました。流動負債増加の主な要因は、短期借入金の増加等によるものであります。固定負債減少の主な要因は、長期借入金の増加がありますが、退職給付引当金及び役員退職慰労引当金の減少等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ、6百万円余減少し、22億61百万円余となりました。これは、その他有価証券評価差額金の増加がありますが、利益剰余金の減少によるものであります。

(3)研究開発活動

該当事項はありません。

(4)従業員数

当第3四半期連結累計期間において著しい増減はありません。

(5)生産、受注及び販売の実績

当社グループは、生産、受注及び販売を行う事業を行っておりませんので、記載を省略しております。

(6)主要な設備

新設、休止、大規模模改修、除却、売却等について、当第3四半期連結累計期間に著しい変動があった設備は、次のとおりであります。

新設

国内物流倉庫用地として、神戸市西区に土地（面積：10,000.09㎡ 総額：6億21百万円）を取得いたしました。

(7)経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当社グループの主要な事業である港湾運送における貨物量は、景気の変動はもとより、業者間の価格競争や、生産在庫調整等顧客の物流政策の変更による影響を受けます。また、海外地域における貿易に関する法的規制や、産業構造の変化及び物流形態の変革等によって増減する可能性があります。

これらの状況を踏まえ当社グループといたしましては、景気の動向や経営環境の変化に柔軟に対応し、継続的に安定した収益を確保できる基盤を確立するため、海外物流拠点の充実による効率的で且つきめ細かいサービスの提供など「国際物流業務のトータルプランナーとして常に革新する企業」を目指し、顧客のニーズの変化に対応した事業体となる経営を進めてまいります。

今後の日本経済は、短期的には生産と輸出が拡大、個人消費等総じて徐々に持ち直すとの見方もあるようですが、欧州の債務危機はギリシャからイタリアへと広がりを見せているだけでなく、フランスやドイツにも飛び火しつつあります。加えて米国経済の減速が懸念される中、円高、外需の低迷、株価への影響等アジア及び日本経済に与える影響は不透明な状況にあり、中長期的にみて厳しい見方が大勢を占めております。

当社グループにおきましても、上昇機運で推移していた業績がそれ以降、その勢いが輸出入共に弱含みとなってきておりますが、新規顧客の獲得と既存顧客のシェア拡大及び付加価値の高い貨物の取り込み等による売上拡大と原価・経費の削減を念頭に、業績の向上に努めてまいります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	54,000,000
計	54,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	14,700,000	14,700,000	大阪証券取引所 市場第2部	単元株式数は1,000株 であります。
計	14,700,000	14,700,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成23年12月31日		14,700		735,000		170,427

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 28,000		
	(相互保有株式) 普通株式 31,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,602,000	14,602	
単元未満株式	普通株式 39,000		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	14,700,000		
総株主の議決権		14,602	

- (注) 1 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成23年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。
- 2 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が1,000株(議決権1個)含まれております。
- 3 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式475株が含まれております。

【自己株式等】

平成23年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) トレーディア株式会社	神戸市中央区海岸通1-2-22	28,000		28,000	0.2
(相互保有株式) 広瀬産業海運株式会社	大阪市港区築港3-1-8	5,000		5,000	0.0
(相互保有株式) 三笠陸運株式会社	神戸市中央区港島8-11-6	12,000		12,000	0.1
(相互保有株式) 株式会社忠和商会	横浜市中区新山下3-2-15	14,000		14,000	0.1
計		59,000		59,000	0.4

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、神明監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	588,637	783,126
受取手形及び売掛金	1,839,244	3 2,034,426
繰延税金資産	118,814	118,814
立替金	569,333	646,674
その他	126,510	103,806
貸倒引当金	2,319	2,240
流動資産合計	3,240,220	3,684,607
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,418,644	1,341,849
機械装置及び運搬具（純額）	22,850	24,862
工具、器具及び備品（純額）	10,146	9,482
土地	1,156,869	1,778,853
リース資産（純額）	87,751	80,673
有形固定資産合計	2,696,262	3,235,721
無形固定資産		
借地権	34,560	34,560
その他	17,880	49,442
無形固定資産合計	52,440	84,002
投資その他の資産		
投資有価証券	983,632	874,701
差入保証金	815,338	811,936
その他	503,371	538,265
貸倒引当金	47,066	48,505
投資その他の資産合計	2,255,276	2,176,397
固定資産合計	5,003,979	5,496,121
資産合計	8,244,200	9,180,728

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	1,376,147	1,484,800
短期借入金	2,208,628	3,019,245
リース債務	31,262	34,614
未払法人税等	18,839	25,637
賞与引当金	193,550	105,248
その他	230,420	349,737
流動負債合計	4,058,848	5,019,282
固定負債		
長期借入金	1,470,287	1,535,402
リース債務	61,163	50,548
繰延税金負債	5,194	18,286
退職給付引当金	248,535	181,091
役員退職慰労引当金	132,406	114,594
固定負債合計	1,917,587	1,899,923
負債合計	5,976,435	6,919,206
純資産の部		
株主資本		
資本金	735,000	735,000
資本剰余金	170,427	170,427
利益剰余金	1,331,466	1,294,845
自己株式	8,542	8,735
株主資本合計	2,228,352	2,191,536
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	39,412	69,985
その他の包括利益累計額合計	39,412	69,985
純資産合計	2,267,764	2,261,522
負債純資産合計	8,244,200	9,180,728

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
営業収入	11,522,134	11,721,805
営業費用	10,630,270	10,693,334
営業総利益	891,863	1,028,470
一般管理費	818,425	843,849
営業利益	73,437	184,621
営業外収益		
受取利息及び配当金	54,391	27,075
持分法による投資利益	23,043	24,144
その他	58,501	48,367
営業外収益合計	135,936	99,587
営業外費用		
支払利息	60,873	59,699
その他	2,558	2,173
営業外費用合計	63,431	61,873
経常利益	145,943	222,335
特別利益		
固定資産処分益	1,063	1,140
貸倒引当金戻入額	104	-
特別利益合計	1,167	1,140
特別損失		
固定資産除売却損	462	155
投資有価証券評価損	-	172,530
原状回復費	3,300	-
特別損失合計	3,762	172,686
税金等調整前四半期純利益	143,348	50,789
法人税等	63,935	14,048
少数株主損益調整前四半期純利益	79,412	36,741
四半期純利益	79,412	36,741

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	79,412	36,741
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	17,527	30,573
繰延ヘッジ損益	1,376	-
その他の包括利益合計	16,151	30,573
四半期包括利益	63,261	67,314
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	63,261	67,314
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【会計方針の変更等】

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
<p>税金費用の計算</p> <p>税金費用につきましては、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。また、見積実効税率を使用できない場合は、税金等調整前四半期純利益に一時差異に該当しない重要な差異を加減した上で、法定実効税率を乗じて計算しております。</p>

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
<p>第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。</p>

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)										
<p>1 偶発債務</p> <p>連結会社以外の会社の金融機関からの借入金に対して、次の通り債務保証を行っております。</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">阪神コンテナ輸送(株)</td> <td style="text-align: right;">8,500千円</td> </tr> <tr> <td>神戸港島港運協同組合</td> <td style="text-align: right;">278,610千円</td> </tr> </table> <p>(同組合員3社と連帯保証)</p> <p>2 受取手形割引高</p> <p style="text-align: right;">43,963千円</p>	阪神コンテナ輸送(株)	8,500千円	神戸港島港運協同組合	278,610千円	<p>1 偶発債務</p> <p>連結会社以外の会社の金融機関からの借入金に対して、次の通り債務保証を行っております。</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">阪神コンテナ輸送(株)</td> <td style="text-align: right;">4,500千円</td> </tr> <tr> <td>神戸港島港運協同組合</td> <td style="text-align: right;">281,480千円</td> </tr> </table> <p>(同組合員3社と連帯保証)</p> <p>2 受取手形割引高</p> <p style="text-align: right;">千円</p> <p>3 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理していません。</p> <p>なお、当四半期連結会計期間の末日は金融機関の休日であったため、次の満期手形が四半期連結会計期間末の残高に含まれております。</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">受取手形</td> <td style="text-align: right;">10,482千円</td> </tr> </table>	阪神コンテナ輸送(株)	4,500千円	神戸港島港運協同組合	281,480千円	受取手形	10,482千円
阪神コンテナ輸送(株)	8,500千円										
神戸港島港運協同組合	278,610千円										
阪神コンテナ輸送(株)	4,500千円										
神戸港島港運協同組合	281,480千円										
受取手形	10,482千円										

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
減価償却費 135,195千円	減価償却費 131,937千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	73,384	5	平成22年3月31日	平成22年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	73,362	5	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)2
	輸出	輸入	国際	計				
営業収入								
外部顧客への売上高	2,704,650	4,366,145	4,262,501	11,333,297	188,836	11,522,134		11,522,134
セグメント間の内部 売上高又は振替高	19,368	3,792		23,160	55,592	78,752	78,752	
計	2,724,018	4,369,937	4,262,501	11,356,457	244,429	11,600,887	78,752	11,522,134
セグメント利益又は損失()	13,809	1,686	39,204	51,327	22,110	73,437		73,437

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、船内荷役、港湾関連、倉庫業及びその他の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失()の合計は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	輸出	輸入	国際	計				
営業収入								
外部顧客への売上高	2,866,439	4,565,541	4,128,040	11,560,022	161,783	11,721,805		11,721,805
セグメント間の内部 売上高又は振替高	7,730	1,730		9,461	63,102	72,563	72,563	
計	2,874,170	4,567,271	4,128,040	11,569,483	224,885	11,794,369	72,563	11,721,805
セグメント利益	2,225	108,086	59,367	169,679	14,941	184,621		184,621

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、船内荷役、港湾関連、倉庫業及びその他の事業を含んでおります。

2. 調整額 72,563千円は、セグメント間取引消去額であります。

3. セグメント利益の合計は、四半期連結損益計算書の営業利益あります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	5円41銭	2円50銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	79,412	36,741
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	79,412	36,741
普通株式の期中平均株式数(千株)	14,664	14,661

(注) 前四半期連結累計期間および当四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年2月11日

トレーディア株式会社
取締役会 御中

神明監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 重 藤 紘 一 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 古 村 永 子 郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているトレーディア株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、トレーディア株式会社及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。